

講義レジュメ

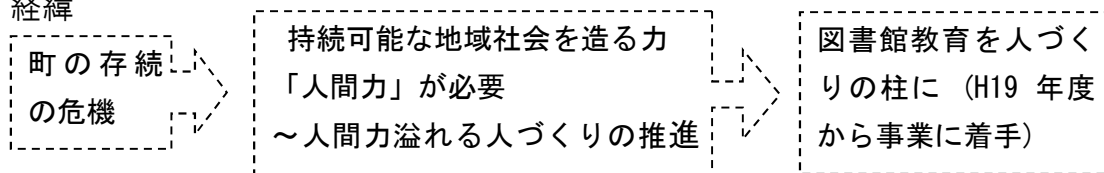
内容・テーマ	講師
<u>海士町・島まるごと図書館構想の概要</u>	<u>磯谷 奈緒子</u>
	期 日
	<u>令和元年6月19日</u>

●島まるごと図書館構想 沿革

- H19年10月 未設置図書館地域として図書館事業がスタート
- H19年11月 町内の保育園、小学校、中学校、高校への学校司書配置が始まる
- H19年11月 港、地区公民館等の分館新設、海士町中央公民館図書室をリニューアルする
- H21年 海士小学校が「子どもの読書活動優秀実践校」で文部科学大臣表彰受賞
- H22年10月 海士町中央図書館 開館
- H23年 福井小学校が「子どもの読書活動優秀実践校」で文部科学大臣表彰受賞
- H24年 海士町中央図書館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」で同じく受賞
- H26年11月 I R I主催「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2014」で優秀賞受賞

●島まるごと図書館構想発足の経緯と概要

① 経緯



② 「島まるごと図書館構想」とは？

“図書館のない島”というハンデを逆に活かし、島の学校(保・小・中・高)を中心に、地区公民館や港など人が集まる既存の施設を図書分館と位置づけ、それらをネットワーク化することで島全体を一つの図書館とする構想。

最小限の予算・本・図書スペースで最大限の効果を生むための小さな町ならではの図書館運営システム。

③ 本館・分館の運営状況 ※海士町人口約 2,300 人

中央館+学校図書館(3)+地域分館(19)⇒合計 23 の図書施設が点在している

- ・中央図書館 面積 200 m²、蔵書数 36,942 冊、貸出冊数 13,046 冊、来館者数 10,821 人
- ・学校図書館 小学校 2 校 蔵書数 8,000 冊、年間平均貸出数 80 冊
中学校 1 校 蔵書数 10,800 冊、年間平均貸出数 37 冊
- ・地域分館 地区公民館、ホテル、学習塾、診療所、資料館、高齢者施設など
分館への配本数 5,923 冊、貸出冊数 1,921 冊 (移動図書サービスも含む)

※職員は専任館長、専任職員 4 名の計 5 名 (うち 3 名が学校司書兼務)

④学校と連携した取組

- ・相互貸借

学校間、公共・学校間で日常的に相互貸借を実施、司書が連絡・物流を担う。

- ・資料の長期貸出

通常の貸出とは別に保～高に児童・一般書を計約 2,600 冊貸出して資料の充実を支援。

- ・学校司書連絡会

小～高校の学校司書による情報共有や研修を行う。中央図書館主催で毎月 1 回開催、館長含む全スタッフが参加。

- ・保～高連携推進協議会図書部会

各校の司書教諭・学校司書による連絡会。学期に 1 回開催。家読推進、小～高の情報活用体系指導表の活用推進、読書アンケート実施等に取り組む。

◎学校司書連絡会で出た意見や活動案を図書部会に提案し、町内の全学校で実施・推進する流れが定着している。

⑤まとめ

- ・公共図書館が学校図書館支援センターの機能を担っている。

- ・町の取組である島まるごと図書館構想に学校図書館も組み込まれていることを学校と共有することで協力が得られやすくなった。

- ・学校兼務の司書が学校図書館と公共図書館をつなぐ役割を担うことにより、公共・学校図書館が一体となった読書推進体制の構築を図ることができた。

⑥展望

- ・公共図書館司書が学校の実態を把握し、総合的な視点で行政に要望を上げる。「子ども読書」を町全体で考え動くことが大事。

- ・公共図書館に比べ、学校図書館の人員・推進体制には地域間・学校間格差がある。学校図書館及び学校司書の役割・位置付けを明確化し整備を進めるには、公共図書館の協力が必須だと感じる。

- ・学校図書館を地域に開かれた場所にすることで公共図書館との一体化が図られ、相乗効果で共に発展できるのではないかと。

- ・公共図書館司書が学校図書館を定期的に訪れること、司書同士がつながることから連携は始まる。